

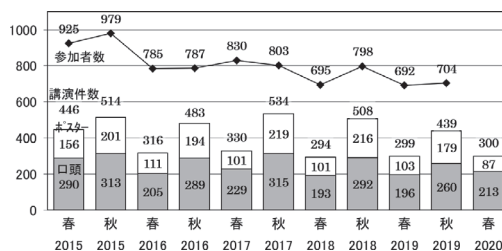
2020年度春季大会の報告

2020年度春季大会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、当初予定していたカルツかわさき(神奈川県川崎市川崎区富士見1-1-4)を会場とする開催は行わず、予稿集の発行をもって大会開催とした。

大会は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する3件の専門分科会で構成された。一般講演の発表件数は264件(内訳はポスターが87件、口頭発表が177件)、専門分科会は36件で計300件であった(第1図)。

書面および電磁的方法により総会が開かれ、吉森正和氏に日本気象学会賞が、中村 尚氏に藤原賞が、楠研一・鈴木博人両氏に岸保・立平賞がそれぞれ授与された。5月23日～31日には、気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションがWeb上で開催され、26件の発表が行われた。

5月19日には、Zoom ミーティングにより雲・降水研究会が開かれた。



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数(口頭、ポスター)。2020年度春季大会の参加者数は省略。

今大会の開催に当たり、19の企業・団体からご協賛・ご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、国立研究開発法人海洋研究開発機構、防衛大学校、横浜国立大学の皆様には大会実行委員会として大会準備にご尽力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2020年5月 講演企画委員会